

## 「総資本回転率について」 ～収益性分析 3～

ROA（総資本利益率）は、  
会社の利益をあげるのに、どれくらいの資本をかけたかを判断する指標でした。

$$\text{ROA（総資本利益率）} = \frac{\text{利益（成果）}}{\text{総資本（元手）}} \times 100$$

この計算式で、収益性を把握したとしても、  
なぜそうなったか又はどうすれば改善できるのかを検討しなければなりません。

そこで、ひとつの方法として、  
上記公式を分解して、改善策のポイントを探ってみることができるということは、  
前回の最後の章で簡単に説明しました。

今回は、ROAを「売上高利益率」と「総資本回転率」に分解することにより、  
収益性分析の考え方を深めていこうと思います。

$$\text{ROA} = \frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \times \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$$

「売上高経常利益率」                      「総資本回転率」

「売上高利益率」（前は「売上高経常利益率」で説明しています）は、  
売上高に対する利幅を示す比率であり、  
高い数値を示すほど収益力が増しているということになります。

この「売上高利益率」の数値をあげるためには、  
売上高の増加及び売上原価その他経費の減少が考えられます。  
詳しい内容については、前々回の説明を再度確認ください。

それでは、今回の本題である 「総資本回転率」をみていきましょう。

総資本回転率は、投下資本(総資本)を用いて、  
どれだけの売上をあげたのかを示す指標であり、  
一定期間の売上高が投下資本によって何回転したかを把握することができます。

投下資本の利益効率を示す「投下資本回転率」の単位が「率」ではなく、  
「回(回転)」を使います。  
ところで、「回転」とは、どういうことなのでしょう。

「回転」とは、会社が現在もっているものを運用することで費消され、  
新たに獲得することによって新しいものに入れ替わることをいいます。

これだけは少し分かりにくいので、例をあげて説明してみましょう

たとえば、資本金100万円(株主資本)で会社を始めます。  
さらに、銀行から100万円の借金(他人資本)をしたとします。  
この200万円(総資本)を元手に、一年間で1000万円の売上をあげたとします。  
この場合、「総資本は5回転した」ということになります。

$$\text{総資本回転率} = \frac{1000\text{万円}}{200\text{万円}} = 5\text{回転}$$

つまり、元手の200万円は、仕入代金や人件費などの形で費消され、  
これらが売上げられて、その代金が回収され、  
再び1000万円というお金になったということなのです。

投下した資本(総資本)が、  
年間に何回売上高として回収されたかをみるものが総資本回転率ですから、  
この回転率が高いほど、資本が有効に活用されていることとなります。

たとえば、総資本が200万円のA社と、総資本が500万円のB社が、それぞれ1000万円の売上をあげたとすると総資本回転率は次のようになります。さて、どちらの会社の効率性が高いのでしょうか。

$$\text{< A社 >} \quad \frac{1000 \text{万円}}{200 \text{万円}} = 5 \text{ 回転}$$

$$\text{< B社 >} \quad \frac{1000 \text{万円}}{500 \text{万円}} = 2 \text{ 回転}$$

上記例では、A社が200万円の資本を投入して、売上として1000万円を回収するまでの回転が年間5回も行われているのに対し、B社は、A社より300万円も多い500万円の資金を投入しているにもかかわらず、売上として1000万円を回収するまでの回転が年間2回しか行われていなかったことを示しています。

当然、A社のほうが投下資本を有効に活用していることがわかりますね。

それでは、回転率を上げていくにはどうすればよいのでしょうか。

投下した資本が一年間に何回転したかで、資本が有効に利用されているかをみるのが総資本回転率です。

投下した資本は、商品や建物などの資産に形をかえ、これを販売や利用することにより、投入された資金に利益が加算されて回収（売上高）されています。この流れを鑑みれば、総資本回転率を高めるためには、貸借対照表上の流動資産や固定資産の回転率を高めればよいことになります。

総資本回転率の分母の総資本の額（負債と純資産）は、資産の合計額と同じですから、売上高が一定の場合は、それぞれの資産の回転率を高め、無駄を省き、総資産を小さくすれば、総資本回転率は上昇することになります。

具体的には、

棚卸資産在庫の圧縮、遊休固定資産の売却などで**資産を減らし**、  
その資金で**借入金（他人資本）を減らす**ことにより、  
**総資産を小さく**することができます。

結論として、「**ROA（総資本利益率）**」を上げていくためには、  
**利益（粗利益・営業利益・経常利益）の額を上げる**か、  
**総資本を少なく**すればいいのです。

「それが簡単にできれば、苦労はしない」・・・ですね。

もう一度、御社の貸借対照表と損益計算書をご確認いただき、  
なにか改善策は無いか検討してみてください。